

平成25年度事務事業評価シート

◎基本情報

事務事業名	環境学習推進事業		担当部署	市民環境部 環境局 環境政策課	
総合計画体系			根拠法令計画など	鳴門市リサイクルプラザ環境学習館条例・鳴門市リサイクルプラザ環境学習館条例施行規則・鳴門市環境基本計画	
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適住み良いまちづくり	事業期間	開始	平成 <input type="text" value="25"/> 年度
政策(中項目)	2	快適に暮らせるまち なんと			20 年度
(小項目)		ごみ処理			
施策	6	自然と共生できる循環型社会づくりの推進		終期	
基本事業	2	クリーンセンターの運営及びごみ対策			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市民						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	市民の環境問題への意識の高揚を図る。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		環境学習館利用者数	7,700	7,700	8,000	8,300	8,300	人

◎実施結果(DO)

事業実施内容	24年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行ったのか	フクロウと子どもたちの森について、植栽の育成や雑草刈りなど、市民が利用しやすい環境づくりに努めた。 絶滅危惧種の「カワバタモロコ」をビオトープ池にて飼育するための環境整備を、募集した親子と行い(8月・9月・11月の3回実施)、12月にカワバタモロコをビオトープ池に放流を行った。 環境学習に関する講座や施設内の見学を実施した。						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		23年度実績	24年度実績	25年度目標	26年度目標	27年度目標	単位	
活動指標 <small>実施した事業の活動量を示す指標</small>	1	クリーンセンター視察数	31	43	40	45	45	件
	2	イベント・講座実施数	26	40	30	32	32	件
成果指標 <small>対象にどのような効果があつたか示す指標</small>	環境学習館利用者数		7,553	7,693	—	—	—	人
	目標達成率(実績/目標)			99.9	—	—	—	%

コスト分析		23年度実績	24年度実績	25年度	26年度	27年度	単位	
事業費	(財源内訳の合計)		5,014	1,996	505	215	215	千円
	財源内訳	国	0	0	0	0	0	
		県	4,620	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		その他	355	10	300	10	10	
	一般財源	39	1,986	205	205	205		
事業にかかる人件費 (人件費内訳の合計)		2,695	2,695	2,695	2,695	2,695	人	
人件費内訳	正規職員(6,721千円/人)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1		
	臨時職員等(2,023千円/人)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
総事業費 (事業費と事業にかかる人件費の合計)		7,709	4,691	3,200	2,910	2,910	千円	

【事務事業名：環境学習推進事業】

◎平成25年の実施状況(DO)

現在の実施状況	環境学習館で育てたゴーヤ苗を希望者に無料で配布するとともに「緑のカーテンコンテスト」を開催することで、市民の方に環境学習館や環境問題への関心や理解を深めてもらう。昨年度ビオトープ池に放流したカワバタモロコの繁殖に取り組むほか、芝生広場南側のカスミサンショウオが発見された池周辺の整備を、募集した親子とともに進めるなど、フクロウと子どもたちの森について利用しやすい環境づくりに努める。また、環境学習に関する講座や施設内の見学を実施する。 外部評価委員会で環境学習推進に向けた環境学習館の活用について、指摘のあった民間委託及び土日・祝日の開放等の事項について検討する。また、クリーンセンターへの搬入物の中から再利用可能なものを利用や寄贈等できないか検討する。
---------	--

◎項目別評価(CHECK)

事務事業の評価	1.必要性の評価		理由等所見欄
	6	<input checked="" type="checkbox"/> ① 廃止した場合に支障が出る。	環境学習の推進は、市民の環境についての意識啓発を高めるために必要である。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 施策 自然と共生できる循環型社会づくりの推進 の達成につながる事業である。	
		<input checked="" type="checkbox"/> ③ 税金で実施するにふさわしい事業で、市民への説明責任も果たせる。	
		<input type="checkbox"/> ④ 市民の基本的な生活の維持・確保に必要不可欠な事業である。	
		<input type="checkbox"/> ⑤ 行政内部の管理上必要不可欠な事業である。	
	/10	<input type="checkbox"/> ⑥ 法令により実施することが義務づけられている事業である。	
	2.有効性の評価		理由等所見欄
	6	<input checked="" type="checkbox"/> ① 市民生活上の課題解決に貢献している。	環境の整備を行い、利用者を増やすことで、市民の環境問題への意識啓発を図ることができる。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業目標が達成できるような事業内容になっている。	
<input checked="" type="checkbox"/> ③ 事業対象は適切である。			
<input type="checkbox"/> ④ 成果目標が達成され、市民に具体的に説明できるような効果があがっている。			
<input type="checkbox"/> ⑤ 現在の事業費で、事業の見直しによる成果向上の余地はない。			
/10			
3.効率性の評価		理由等所見欄	
4	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業実施手法は適切である。	市民の方の環境学習館への来場を増やすことで効率化が図れる。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業費を削減する余地はない。		
	<input type="checkbox"/> ③ 作業手順の改善などによる人件費削減の余地はない。		
	<input type="checkbox"/> ④ 受益者負担や補助金の割合に問題はない。		
	<input type="checkbox"/> ⑤ 効率性向上の余地はない。		
/10			

◎今後の方向性(ACTION)

課題	これまではクリーンセンター視察も多かったが、今後は施設を訪れる人を増やすことが課題であり、対策として運営主体の見直し(NPO法人への委託)や休日の取り扱いなどを検討する必要がある。また「フクロウと子どもたちの森」についても、これまでに整備を終えたビオトープ広場や野外学習広場等の利用促進を図っていく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
↓「廃止」・「要改善」・「拡充」の場合は以下の欄に記入してください。					
今後の改革案	実施予定時期	平成26年度 ▼ 月末定 ▼			
	どのように改革するのか	平成25年度の実績を踏まえて、フクロウと子どもたちの森56haを環境学習の場として長期的に活用できる方法について検討する。			